

# 第9号

発行：Dream 五代塾  
吹田市千里山西 5-14-17  
発行責任者：理事長 川口 建

赤心 継がん

Dream

# 五代塾

Godaijuku

# Sinbun (新聞)

## 清水書院教科書『日本史探求』 開拓使事件の五代記述を書き替え

Dream 五代塾顧問 八木孝昌

### 相変わらずの五代払い下げ説

高校の歴史教科書は来年度から、近現代の日本史と世界史を融合した『歴史総合』、従来の『世界史』を名称変更した『世界史探求』、従来の『日本史』を名称変更した『日本史探求』の三種類となる。『歴史総合』はすでに今年度から採用されており、必須科目となっている。他方、従来の『日本史』『世界史』を名称変更した『日本史探求』『世界史探求』は来年度からの選択科目として採用されることになっており、本年六月から七月にかけて全国で展示会が開催された。

各社の『日本史探求』は従来の『日本史B』を踏襲している。そして開拓使官有物払い下げ事件についても記述を踏襲している。たとえば実教出版の『日本史探求』（令和4年3月29日文科部科学省検定済）は開拓使事件の説明を次のように記述している。

「開拓使を廃止するにあたって、薩摩出身の開拓長官黒田清隆は、140万円余の費用を投じた施設を、約39万円（無利息）で30年をかけて支払うという破格の条件で、同じ薩摩出身の政商五代友厚らに払い下げようとした。藩閥と政商の癒着のあらわれとして、猛烈な政府批判をうんだ。」

他方、従来の同社『日本史B 新訂版』（平成29年3月7日検定済）の記述は、

「開拓使を廃止するにあたって、薩摩出身の開拓長官黒田清隆は、140万円余の費用を投じた施設を、39万円無利息30年賦という破格の好条件で、同じ薩摩出身の政商五代友厚らに払い下げようとした。藩閥の情実のあらわれとして、猛烈な政府批判をうんだ。」

となっていて、語句の微修正が行われているだけである。

また、『歴史総合』においてはおおむね開拓使事件には言及されていないが、例外的に実教出版の『詳述歴史総合』と『歴史総合』（いずれも令和3年3月30日検定済）は、それぞれのように極端な記述を行っている。

「開拓使長官の黒田清隆が同じ薩摩出身の政商、五代友厚に、不当に安い価格で官有物を払下げていたことが明らかになった事件。」

「北海道の開拓使長官の黒田清隆が、同じ鹿児島出身の政商五代友厚に、不当に安い価格で官有物を払下げていたことが明らかになった事件。」

これは数ある誤記の中でも最も露骨なものである。「五代友厚に官有物を払下げていたことが明らかになった事件」としているが、それが「明らかになった」ことは一度もない。「明らかに」になったことを示す資料があれば、出してみなさい」と言いたいところである。

### 清水書院『日本史探求』、 五代記述書き替え

こういう状況の中にあつて、一社だけ清水書院の『日本史探求』が五代記述を書き替えた従来の同社『高等学校日本史B 新訂版』が次のように記述していたところ、

「開拓使の廃止を前に、長官の黒田清隆が

同じ薩摩出身の政商五代友厚に、約200万円を投じた事業を38万円余という不当に安い価格で払い下げようとして問題となった。」

『日本史探求』は次のように記述を変更した。  
「開拓使の次官に1870年に就任して以来、黒田清隆（1840-1900）が事実上、北海道開拓の責任者であった。1882年に開拓使は廃止されることが予定されており、黒田は開拓使が約200万円投じた事業を守るため、37万円余という不当に安い価格で、同じ薩摩出身の政商五代友厚の経営する「関西貿易社」に払い下げようとしていると新聞が報じて問題化した。結局、明治十四年政変で開拓使官有物の払い下げは中止されるとともに、開拓使も予定どおり廃止された。」



清水書院『日本史探求』の左監部分

従来の「長官の黒田清隆が同じ薩摩出身の政商五代友厚に、(中略)不当に安い価格で払い下げようとして問題となった」は事実誤認である。その証拠は国立公文書館所蔵の政府文書である。そこに収められた黒田長官の三条太政大臣宛「伺」書は、安田定則ら開拓使幹部四人が退職して設立する民間会社への払い下げを提案しており、政府がその「伺」書の通りに払い下げを承認したことが記録文書に残っている。

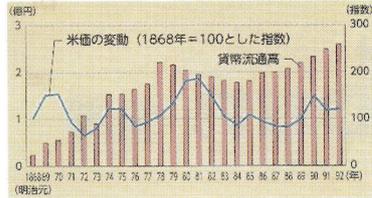
その事実誤認記述が、「政商五代友厚の経営する『関西貿易社』に払い下げようとしている」と新聞が報じて問題化した」と書き替えられた。東京横浜毎日新聞が「関西貿易商會は(中



墓前に供えられた清水書院新旧記述筆者撮影



開拓使官物払い下げ事件 開拓使の義上を前に、長官の黒田清隆が同じ薩摩出身の政商五代友厚に、約2000万円を投じた事業を38万円余という不当に安い価格で払い下げようとして悪謀となった。「公議」や「世論」の風にあおられる黒田。(『開拓使』)



貨幣流通高と米価の変動 (『明治・大正期日本経済統計総覧』)

### 64 自由民権運動はなぜ衰退したのか

明治十四年の政変と政党の結成  
大久保利通の暗殺後、政府の中心を占めたのが、長州出身の伊藤博文や肥前出身の大隈重信であった。大隈は、西南戦争に際して大蔵卿として不換紙幣を乱発した結果、はげしい物価騰貴を引き起こしていた。

清水書院旧『日本史B』の左欄

筆者は過日その新旧教科書の該当ページを五代公の墓前に供え、虚偽の記述を改めた教科書が世に出たことを報告した。(1頁写真)

かくして、来年から高校生たちは一つの歴史的事件について、事実を学ぶ者と虚偽を学ぶ者に分かれることになる。

この七月には末岡照啓住友史料館研究顧問著の『五代友厚と北海道開拓使事件——明治十四年の大隈追放と五代攻撃の謎に迫る』が刊行された。同書は開拓使事件についての広範な史料渉渉を通じて克明に事実関係を再現し、事件の真相と五代の無実を余すところなく明らかにした開拓使事件論の決定版である。著者本人も「あとがき」において、「東京横浜毎日新聞の誤報によって、五代友厚と関西貿易社が官有物の受け皿会社とされてしまった。この問題は本書によって完全に払拭されたものと考える」と強い自負を表明している。

五代無実が歴史研究の側から完璧に論証され、時を同じくして清水書院『日本史探求』が五代記述を書き替えた。これは偶然に起きた別々の事柄ではない。二〇一〇年に末岡住友史料館副館長(当時)が『住友史料館報』に掲載した「『開拓使官物払い下げ事件』再考」の五代無実論を受け継いで、拙著『新・五代友厚伝』が二〇二〇年に刊行され、それが契機となって大阪市立大学関係者を中心とした「五代友厚官物払い下げ説見直しを求める会」が二〇二一年に発足し、同年十一月にはNHK大河ドラマ『青天を衝け』の脚本がドラマ上であるといえ開拓使事件の五代を無実とし、二〇二二年一月には大阪市立大学で「五代友厚シンポジウム」が開催され、その前後には「見直しを求める会」が文部科学省への署名活動を進めるとともに教科書会社等への五代

記述の見直しを求める文書を送り、同年三月には関西テレビが「報道ランナー」で五代名譽回復活動を本格的に紹介し、というように五代無実の世論形成の輪が広がっていった。その流れの先端で上記の二つが起きている。それぞれは五代名譽回復を目指す息の長い活動の到達点としてあると言つていい。

教科書会社各社・『日本史年表』刊行岩波書店・『日本史年表』編纂歴史学研究会に記述書き換えを求めてきた上記「見直しを求める会」は、清水書院以外の教科書会社や岩波書店・歴史学研究会に対して、清水書院『日本史探求』における記述書き換えの事実を知らせるとともに、五代記述の誤りを正すよう再度求める文書を近く送ることになるであろう。昨年十一月、本年三月に続いて、三度目の要望書送付である。

『日本史探求』・『歴史総合』・岩波『日本史年表』が官有物五代払い下げ説を依然としてとっていることには何の根拠もなく、ただ新聞の誤報を事実であるかのように載せているだけである。真実が社会的に明らかになってきているにもかかわらず、そして、「見直しを求める会」からの要望書に対して「検討する」と回答しているにもかかわらず、五代記述の誤りを現在に至ってもなお訂正しないのは、それぞれの記述を担当する歴史研究者およびそのグループの学問的姿勢を疑わざるをえない。

五代名譽回復活動が一社の教科書書き替えという成果を得て大きな一歩を印した今、「見直しを求める会」はすべての誤記が正されるまでその活動が継続するであろう。本紙読者各位におかれても注視とご支援をお願いしたい。

### 五代名譽回復活動の経過

### 全教科書・岩波『歴史年表』の書き替えへ

### 五代友厚の写真

五代友厚の写真は多くない。特に侍姿の写真は今のところ一葉しか世のなかにでないようである。

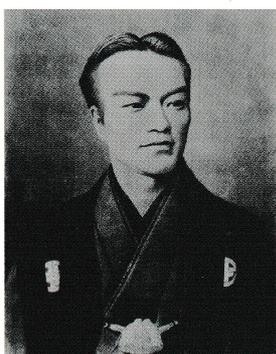
### Dream 五代塾顧問 曾野豪夫

### 五代友厚 侍姿の写真

『五代友厚秘史』(昭和35年、再版同36年)は編者山中國子女史が友厚の妻豊子の姪に当たる永見晴(私の外祖母)、萱野みね子、私の伯父の永見克也とも相談しながら探していたことを私は知っているが余り見つからなかったらしい。同著に掲載の写真は次の通りである。(掲載順)



- 一、着物姿…晩年に近い写真と思う (国立国会図書館蔵)
- 二、侍姿…慶応元年三月頃長崎で
- 三、洋服姿…慶応元年ロンドンで
- 四、同 慶応四年正月大坂で
- 五、同 明治二年五月大阪又は横浜



一、着物姿…晩年に近い写真と思う (国立国会図書館蔵)

二の長崎での写真は「秘史」では「幕末当時」としか記載されていなかった。たまたま一〇年前の二〇一二年に私は隔月刊『歴史通』七月

号を購入した。同月号は中国特集で私は一九八〇年代中頃に兼松北京事務所長として中国に駐在していたので高島俊男、石平、宮脇淳子、福島香織氏たちの論考を読みみたかったのである。



五代才助の幕末当時  
旧薩摩藩士。通称才助。

二、侍姿…慶応元年三月頃長崎で

目次の終りの方に「古写真探偵 薩摩の英国秘密留学生云々」と印刷された小さめの活字が目に入った。早速本文を読むと、著者森重和雄氏は二〇一一年に行われた「明治古典七古書大入札会」の資料の中に薩摩藩松木弘安の肖像写真を発見された。写っている人物から長崎の上野彦馬写真館で撮影されたものであることがすぐに分かったそうである。しかも写真台紙裏側に墨書された説明文によると、長崎で撮影し丑年（慶応元年）四月四日（ロンドン）に行く途中の（香港より送る、と書いてあった。



五代才助



松木弘安

そこで森重氏はピンときて五代才助の写真もあるのではないかと調べると『五代友厚秘史』に松木弘安と同じポーズで撮った五代の写真を見つけれられた。ポーズは刀を左手に持つか右手に持つかの違いだけである。そして五代の写真には敷



五、洋服姿…明治二年五月  
大阪又は横浜



四、洋服姿…慶応四年正月  
大坂で



三、洋服姿…慶応元年  
ロンドンで

物が写っていた。森重氏のおかげで五代の侍姿の撮影年と場所が分かった次第である。森重氏の記事に関心のある方は事務局までご連絡下さい。  
国立国会図書館、大阪商工会議所には世に出いてない友厚の写真がもう少しあるのではないかと考えている。

私の外曾祖父永見米吉郎と外祖父省一が明治十六年に長崎の上野彦馬写真師に撮った写真は『Dream 五代塾新聞』創刊号に掲載して貰ってある。

フルベッキ写真

明治元年秋に長崎上野彦馬写真館で撮影されたといわれている有名なフルベッキ写真に

五代友厚が写っているのではないかと昭和五十一年（一九七六）に話題となったことがある。写真上段右から六人目である。私は一目見て「違っ」と断じた。撮影年月も確定されていないのでこの写真について今は論じないが関心のある方はWikipedia又は関係書籍を参照されたい。（実は五代とされた人物の右側は私の妹の主人の大伯父香月経五郎であり、これは間違いのないと思う。）



- その他の参考資料
- ・ 山口貴正『日本の夜明け フルベッキ博士と幕末維新の志士たち』文芸社
  - ・ 斎藤充功『消された「西郷写真」の謎』学研パブリッシング

Topics

五代友厚の足跡を  
鹿児島に訪ねて

Dream 五代塾会員

井溪明

（堺事件を語り継ぐ会代表）

6月12日・13日の二日にわたり念願であった五代の足跡を鹿児島に訪ねる旅を行いましたので、その簡単な紀行をここに綴ります。12日朝8時過ぎのサクラで新大阪を出発し

12時過ぎに鹿児島中央駅に到着。駅前広場に建つ「若き薩摩の群像」の真ん中で、右手で未来を指し示して座っている五代友厚に御挨拶。本来ならまず磯庭園の尚古集成館へ向かうところであるが、現在館はリニューアル工事のため2年ほど先まで閉館中で、まず見たかった五代が持帰ったイギリス製織機も見られないということで、駅前から市電に乗り換えて天文館で下車し、鶴丸城跡の黎明館へ向かう。途中、城跡前の鹿児島まち歩き観光ステーションで、五代友厚の缶バッジをゲットする。この図柄は後に訪ねる泉公園内の五代友厚銅像から取ったもの。

黎明館では郷土にちなむ数多くの展示資料のなかで五代が描き大久保が賛を付けた竹岡軸や所持していた時計など僅かな五代関係資料展示や特別展示としてこれも僅かに並べられた薩摩藩英国留学生資料を観覧。

館を後に、長田町の五代友厚誕生地へ向かう。ここは黎明館のあった場所から城山を半周したあたりの閑静な住宅地の中にあり、当初は道端に建てられていた「五代友厚誕生地」（昭和46年（1971）3月建立）石碑であったが、平成28年に鹿児島市が三千五百万円をかけて誕生地整備事業が行われ現在の広場となる。ただっ広い空間に記念碑を挟んで左に足跡の説明台、右にかつては五代が幼年期に描いたとされていた「新訂 萬国全図（実は兄の友健が描いた）」の説明台、この説明台は平成30年5月に大阪商工会議所創立140周年記念として同所より寄贈され、それに報いるため大阪の方向に向けて設置されたとしてい



五代友厚誕生地

る。さらにトイレと休憩コーナーが置かれただけの広場で、特に五代の幼・青年期を偲ぶという程でもなく些か拍子抜けといったところ。鹿児島でも西郷や大久保ほどの扱いはされていないのかと残念な気持ちとなるが、まあ将来の空間活用を期待しておこう。ところで私は黎明館を出てから些か判りにくい案内表示を見間違え、かなりの大廻りをして誕生地にたどり着いたのであるが、皆さんも来られたらご注意ください。

さて、誕生地を後に、長田町方面から黎明館のある広場前の宝山ホール前に建つ薩摩藩家老で五代の支援者であった小松帯刀像を拝した後、泉町公園の五代友厚立像を拝する。この像は台座の説明刻文によると、大阪の篤志家坂岡勇治が東京の彫刻家坂上政克に依頼して制作され、昭和36年(1961)に鹿児島市に寄贈され、誕生地に近い長田陸橋に建てられたが、その後昭和56年(1981)にこの地に移設されたという。



五代友厚像(泉公園)

大阪にある諸像にも劣らない堂々たる五代友厚立像である。

翌13日午前小雨の中、川内からレンタカーでいちき串木野市羽島の薩摩藩英国留学生記念館(SATSUMA STUDENTS MUSEUM)へ。今風にいうと五代友厚の聖地の一つということで早く訪ねたかったが、ようやく念願叶いの訪問となる。途中、黎明トンネルを抜けると、左手に彼らが出発した羽島港と大海原が広がり、遠目に煉瓦造を模した記念館の建物が覗える。記念館に到着し早速館内へ。まずは些か長い

ではあったが案内ビデオを鑑賞。その後展示観覧。一階はビデオコーナーと留学生遺品などが展示。二階では留学生の辿ったコースなどが映像と写真、レプリカ、模型などを交えて多角的に展示され、留学の様子が偲ばれるような構成となっている。最近読んでいた林望著『薩摩スチューデント西へ』の描写が色々にオーバーラップし、暫し展示資料に見入る。さらに企画展として五代友厚の「赤心」展示なども興味深く観覧した後、海側に出て記念碑や渡英した19人のレリーフ像などを彼らが旅立った海をバックに見る。売店の博物館グッズに、映画「天外者」パンフレットがあり早速ゲット。その他幾つかを買い求める。



薩摩藩英国留学生記念館

館員の方や私の訪問を聞きつけて来られた羽島事跡顕彰会川口勝利会長らと暫し話し、建造のいきさつや普及啓発活動の一端なども伺うことができた。館建設にはこの地出身の元市長が大いに尽力され、近代日本の黎明を引っ張った人々にふさわしいものをということで、当初は一億円くらいの建設予算が、結果として四億を上回るような施設として完成したとのこと。羽島の沖には滔々たる未来があったことを深く感じ入る。

このように、五代の足跡を鹿児島に辿ることが出来、ようやく念願の幾つかを果たすことができたが、鹿児島島の尚古集成館はもとより、この羽島には五代が関わった金山跡なども保存されているようで、今一度来てみなければならぬ場所として後髪を(ほとんどありませんが)曳かれつつ記念館を離れて帰阪の途につく。

Dream 五代塾セミナー

第6回セミナー

日時：2022年7月23日(土)

14時~16時30分

場所：川口自宅にて(吹田市千里山西)

セミナー内容：

- ① Dream 五代塾及び五代に関する近況報告(川口建)
- ② 「開拓使官有物払い下げ事件」と五代名誉回復運動の進展(川口建)
- ③ 空海に学ぶ(河本雪夫)
- ・五代塾会員及び仏教雑学主宰

総勢16名の参加。「開拓使官有物払い下げ事件」は来年の清水書院教科書『日本史探究』で替えが確認された。これは大きな進展である。何が誤りで五代が濡れ衣を着せられたのか?、現実に教育界や書籍の史実などにどのような悪影響をもたらされているのかを川口理事長から説明があった。また詳細は本誌第9号に掲載しましたのでお読みください。

第2部は異分野の知識習得として河本氏に講演をいただいた。次の感想を記しましたので、ご参考にお読みください。

空海については常識では考えられない天才、凄いい頭脳を持った方ということはわかるが、なぜわずか入唐2年半ほどで、密教界第一人者である恵



河本雪夫氏の講演風景

果和尚から密教のすべてを引き継ぐことが出来たのが、摩訶不思議な事だ。まず言葉の壁はどう克服したのが興味あるが、空海の18歳から30歳ぐらいまでの間の資料があまりないとのこと。河本氏の仮説で、もしかしたら不明の時期に中国に渡っていたので中国語が堪能で仏典を理解し得たのでは? ? ? ? ? なんとなく考えられる説だ。素晴らしい能力を持つ人は人日々々々姿を見せずに研鑽を積んでいるということだと思ふ。

また最澄は同じように唐に渡り密教を半年だけ学び、自分が密教の理解者だと思いつつ天竺はじめ貴族から信頼されていたが、空海の持ちかえった『请来目錄』を見て自分の密教が中途半端だと反省し、空海に教えを乞うということが出来たことが素晴らしいことだと思ふ。謙虚に自分の至らないことを真摯に反省し教えを乞うという態度に、人として非常に大切な事だと思ふ。

今回講師の河本氏は日々研鑽を積まれていて本当にたくさんの方を教えて頂いて心より感謝申し上げます。(川口由美子)

**編集後記**  
最近大阪・関西万博の話題が増えてきた。私も52年前に何回となく会場に足を運び驚きの連続であったことを思い出す。当時世の中に無いものが沢山展示され、今現実となっている。今回の万博にも大いに期待したい。そもそも日本の万博への参加(1867年)は、時の徳川幕府に先駆けて五代友厚が一番先に手を上げた。何かピンと感ずるものがあったに違いない。この先見性と行動力が現在一番求められるものではないでしょうか。(川口建記)

Dream 五代塾 HP : <https://www.dream-godai.com>  
川口建 Mobile : 080-4497-5688  
Email : [gogoken12345@gmail.com](mailto:gogoken12345@gmail.com)

